

# 白井みちひろの 市政報告



## 次世代のために 今、考えてください！ — 新城市の方向転換は待たなし —

※お手元に置いて、市長選・市議選の参考にしていただければ幸いです

### 平成29年度市長選・市議選日程

選挙期日 10月29日(日)  
告示日 10月22日(日)



### <目次>

◇表紙	P 1
◇新城の現状	P 2～P 3
◇合併11年でどうなった？	P 4～P 5
◇これからの 新城市政10年を考える	P 6～P 7
◇白井みちひろの略歴	P 8
◇<私の一言>募集	P 8

このチラシをお届けしたのは  
( ) です。

発行：新城市議会議員 白井みちひろ

〒441-1341 新城市杉山字前野16-2 (千郷小正門前)

☎：090-1290-2224 ブログ：「白井倫啓」で検索

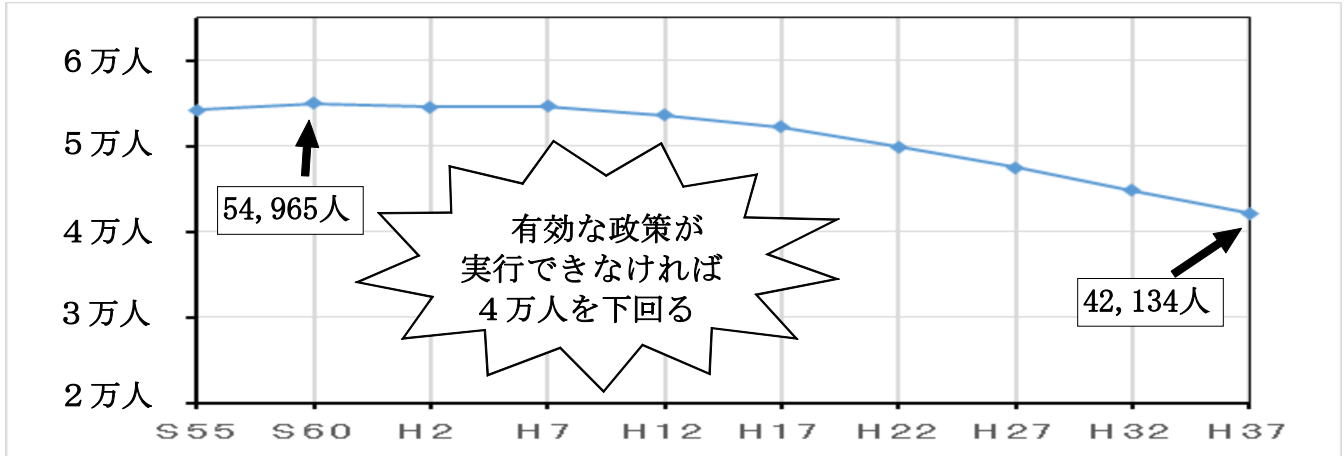
# 新都市の現状

データ出所

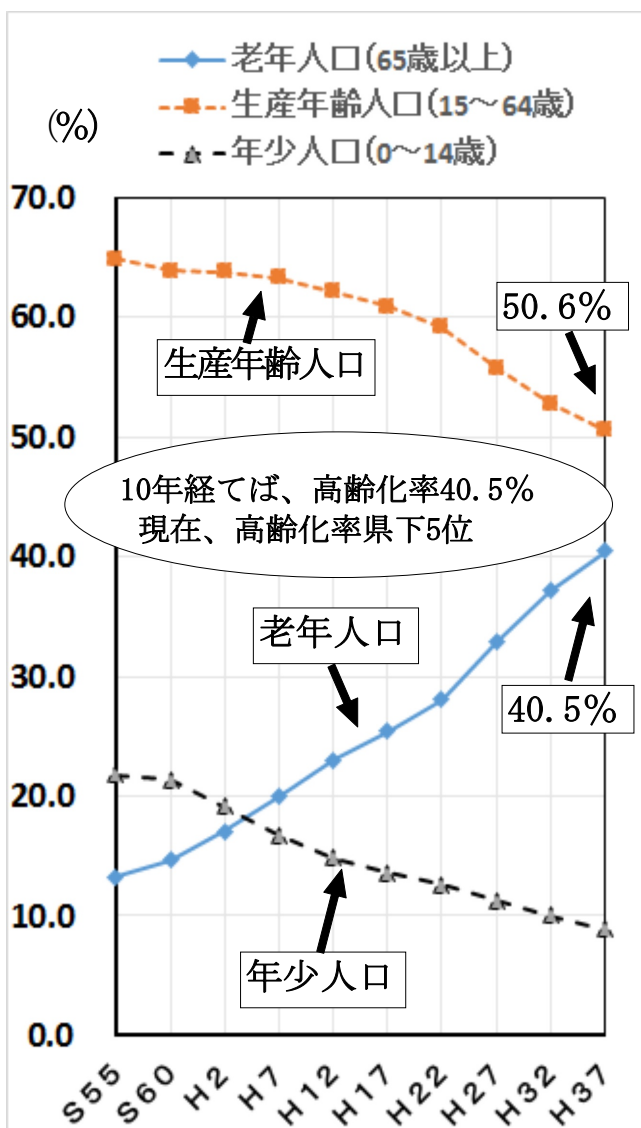
◇平成26年度公共施設白書

◇新都市財政のはなし

## 1. 人口の将来推計



## 2. 年齢構成別人口割合の将来推計



## データが示す新都市の現実

### その1

人口減少対策がなければ、人口減少は推計通り進行。平成42年には、3万人台に突入。

### その2

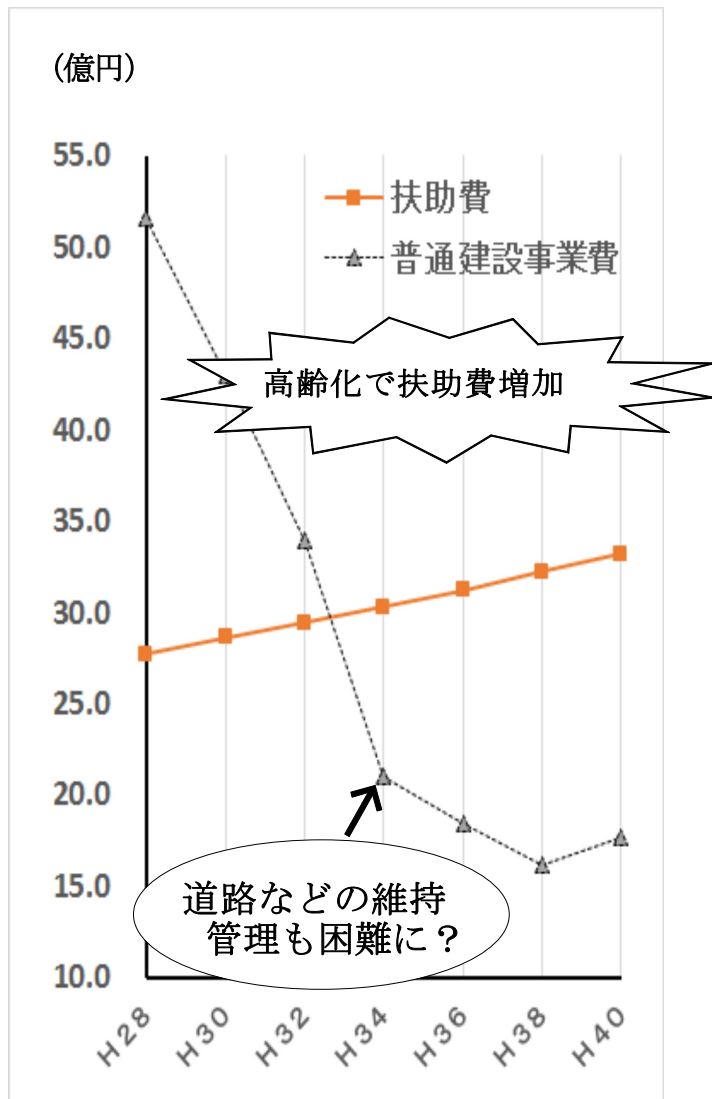
若者の雇用を増やし、定住化を促進することが最重要。若者減少で消滅可能性都市が現実になる？

### その3

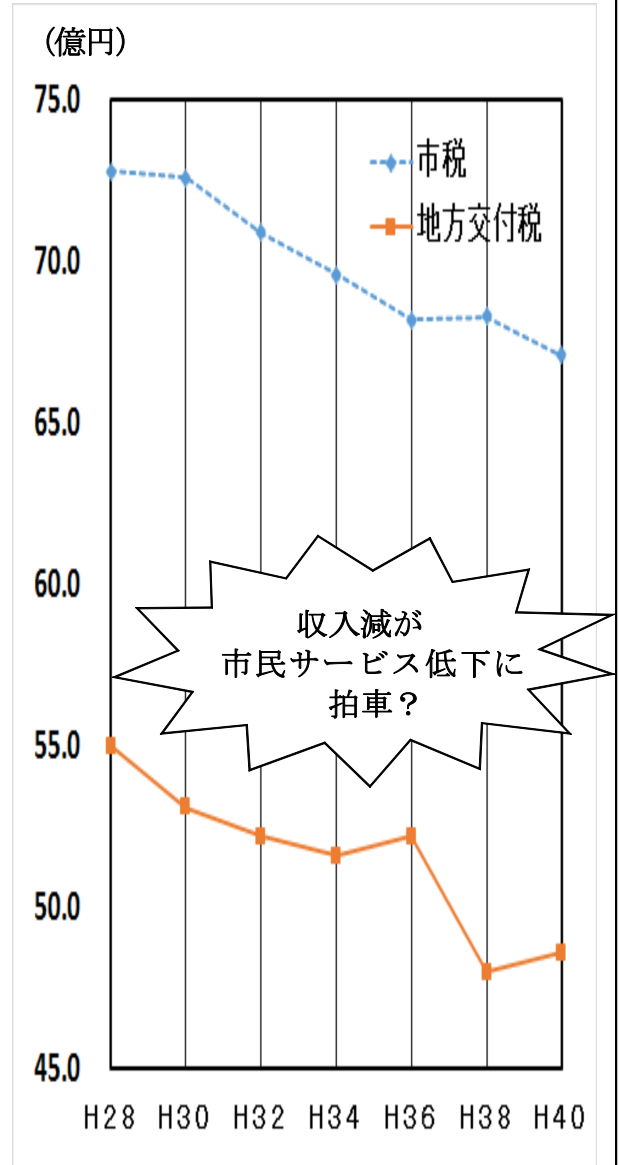
生産年齢人口の減少は、税収の減少に直結。

### 3. 扶助費・普通建設事業費の将来推計

扶助費：児童・高齢者・障害者などへの福祉支援費



### 4. 主要収入の将来推計



### 5. 公共施設・道路などのインフラの維持管理費推計（年々老朽化が進む！）

将来10年間の試算 → 年平均23.6億円  
 過去7年間の実績 → 年平均14.5億円

元一筋から見ると

その4

収入は、市税も地方交付税も減少。

その5

高齢化で 医療費・介護費用の増加。

その6

公共施設などの維持が財政を圧迫。  
生活道路などの補修予算も不足

→ 政策の方向転換無くして、市民生活の安定無し

# 合併11年でどうなった？

## Q. 合併の夢はどこにいったの？

**A.** 穂積市長が合併11年間を担当しました。「今まで通りを変える」と主張し、多くの市民が期待を寄せましたが、3期目が終了します。「自治・改革」を唱えるものの肝心な新城市をどのように変えるのか見えないまま、人口は想定通り減少を続けています。

## Q. 人口減少はいつまでも続く？

**A.** 現在（2016. 10. 1）の人口は、47,392人です。合併時（2005. 10. 1）には、52,924人でした。合併11年で、5,532人（年平均約500人の人口減）が減少しました。合併後の総合計画策定時に、「何も手をうたなければ人口減少は止まらない」と言っていましたが、ほぼ推定どりの人口減少です。結論から言えば、有効な手はうたれていません。

## Q. 消滅可能性都市に選ばれた？

**A.** 新城市は、愛知県下の市で唯一、消滅可能性都市と言われています。消滅可能性都市の定義（日本創生会議による）は、2010年から2040年までに若年女性（20～39歳）人口が5割以下に減少すると予測された自治体ということです。大変深刻な事態にもかかわらず、新城市独自の若者定住対策がみえません。

## Q. 補助金・箱物行政はダメでしょ？ 新庁舎、新城駅前開発、新東名バス？

**A.** 多くの市民が、住民投票まで持ち込んだ新庁舎は、文字どおりの典型的な箱物建設でしたが、最後は穂積市長の「見直しはやった」で押し切られました。

一期目マニフェストで見直しを示唆した大善寺前の25m道路は、そのまま事業が進められました。いまだに、事業費10億円の成果はみえません。

新城駅周辺開発は、合併特例債の期限が迫ってきたため、暫定事業として、駅前開発の着手を決めました。

地方創生の国の支援に飛びついた「新東名バス」は、1便あたり平均乗車7人程度（今年4月実績）で、市民の不信は広がるばかりです。



## Q. 困った困った小学校が廃校に？

**A.** 小学校は廃校が進みました。鳳来地区では、山吉田小と黄柳野小が統合し黄柳川小に、鳳来寺小、鳳来西小、海老小、連谷小が鳳来寺小に統合されました。作手地区では、菅守小、協和小が廃校になり、巴小と開成小が作手小に統合されました。このまま人口減少（P2グラフ参照）が進めば、さらに周辺部の統廃合で、過疎化が加速されます。



## Q. 市内の働き場所を何とかしないと？

**A.** 商業統計調査結果では、H19年598店舗（従業員数3134人）がH26年433店舗（従業員数2433人）に減少しています。第一次産業も高齢化が深刻で、存続が心配です。新城市の地盤を支える産業の衰退が、明らかに市内の働き場所を減少させています。第一次産業の衰退で、雇用場所の喪失とともに、多面的機能の喪失という二重の問題が生まれています。

## Q. 観光地に観光客がなぜ少ない？

**A.** 新城・設楽地域への観光客数は、H4年の約550万人をピークに減少が続き、H17年に約400万人、H26年には約300万人にまで落ち込んでいます。

H27年には、「もっくる新城」効果もあり約400万人と持ち直しましたが、「もっくる新城」来場者数約110万人を除けば、300万人を下回る現実があり、長期減少傾向に歯止めがかかったとは言えません。貴重な観光資源である「鳳来寺山」「湯谷温泉」などの活用も進まず、成り行き任せのような観光政策では、観光産業による雇用は期待できません。

## Q. 役所の改革は言っただけ？

**A.** 穂積市長は、一期目マニフェストで、「役所の改革」を宣言しました。「隠しごとのない役所」

「行政の非効率をなくすこと」が、自治活動を豊かにすると主張していましたが、新庁舎建設の混乱、国の補助金に振り回される姿などをみれば、肝心の役所改革に踏み出す前に3期12年が終了しそうです。

## Q. 産科再開をやると言ったのに？

**A.** 穂積市長は、医療法人・葵鐘会から、医師2名を年1億2千万円で派遣を受ける前提で動いていましたが、子育て世代の声を聞かないまま進めようとしたため、納得を得られずいつの間にか「産科再開」は消えてしまいました。見切り発車にならなくて幸いでした。市内での出産を求める声はあると言っても、将来展望がないままの提案は、あまりにも無責任でした。

市民病院では、産科医師の充実だけでなく、全体の医師不足が解消されていません。

「頑張ります」とは言いますが、具体的に頑張る方向がみえません。



## Q. 自治区予算の使い方が不思議？

**A.** 合併後、約7年後、地域自治区（2013年設置）が発足し、「自治」活動がスタートしました。平成29年度の自治区予算は約1億2千万円にもなっています。

市内には10自治区が設置され、各々の自治区が、自らの判断で事業予算を決め、執行していく仕組みとなっていますが、予算ありきの感がぬぐえません。

「自治」の出発点に疑問の声は消えません。地域を変えるために「自治」意識が大事だと思いますが、現時点では「自治」と銘打った予算消化型活動が先行しています。このままでは、せつかくの自治区予算が地域活性化につながりません。少しでも早い方向修正が必須です。

## Q. 若者は若者議会だけじゃないよ？

**A.** 世間では、若者対策としての新城市若者議会が注目を集めて、全国から議会の視察も多数受けてきました。今年で若者議会は3期目となります。

平成29年度には約1000万円を予算化し、若者議会が運営されています。その予算で定員20名以内の若者委員が、まちなか情報センター、図書館などの改修を進めてきましたが、根本的な若者対策に踏み出しているとは言えません。

新城市若者条例では、「若者が活躍するまちの形成の推進のために必要な施策を策定し、及び実施しなければならない」とうたっています。現在の若者議会の委員への対応だけでなく、市内の若者全体への雇用対策、定住対策などの重要な政策が欠けています。

## Q. 産廃問題から目をそむけていいの？

**A.** 市長選後、産廃問題が表面化し、その後3年間、八名地区を中心にした産廃問題解決に穂積市長の姿が見えませんでした。穂積市長は、当初、産廃業者からの問合せに「進出には賛同できない」と返答したものの、その後不手際が重なり、競売で産廃業者が土地を取得し、現在は操業が始まっています。

現在でも、地元住民を中心にした反対運動が、行政区を巻きこんでいますが、市長はいまだに現場に足を運ぶこともなく、本気で解決させようという意志が感じられません。

## Q. 地方創生のチャンスを活かせるの？

**A.** 平成29年度の地方創生関連予算は、約1兆8000億円となっています。国も地方の衰退に歯止めをかけるために本腰を入れて、様々な支援メニューを示しています。全国の自治体があの手この手で、支援に群がっています。

新城市が手を挙げたのが、「新東名バス」「若者議会」「グローバル人材育成」「地域計画策定」などですが、成果に疑問符またはいつ成果にむすびつくかわからない政策ばかりです。

産業・観光振興など新城市のあり方を大きく変える政策に大胆に切り込むしかありませんが、現状からは、何をしたらいいかわからないまま、右往左往だけしているようにみえるのです。

## Q. エネルギー自給は時代の流れ？

**A.** 時代はエネルギーの地産地消に移っています。経済成長を支えた化石燃料による地球温暖化の進行、原子力発電の危険性などにより、再生エネルギーによるエネルギーの地産地消が脚光を浴びています。

エネルギーの地産地消が、産業を起し雇用も産んでいます。木質バイオマス・水力・太陽光などの再生エネルギーを活用してまちづくりを始めた群馬県中之条町、福岡県みやま市などは、自治体自らが売電会社を立ち上げ、市外に出ていた電気代を市内で循環させています。「可能性を検討する」と結論を先延ばししているだけで、この流れに乗ろうとしないまま好機を見逃してきました。



# これからの 新城市政10年を考える

## 先ず、一歩

### <こんな新城をめざします>

- ◇自主財源を増やして福祉充実
- ◇市民病院を安心の拠点に
- ◇雇用を増やして若者定着

### 新城全体で子育て・若者対策

子どもは地域の宝です。経済的格差で将来の可能性が左右されない政策を進めます。奨学金制度の創設、主権者教育の充実、教育としての学校給食の充実、文化・芸術活動の充実など、次の新城を託せる子供を育て、若者に選ばれる新城市をつくります。

### 市民病院を安心の拠点に

長らく医師不足が続いています。「医師派遣」をお願いしているだけでは、医師の充実は進みません。医療従事者に選ばれる魅力ある総合的なまちづくりを進めます。医療従事者と市民が地域医療を支える仲間として協働できる仕組み（地域医療を支える市民の会など）をつくります。

### <10年後のためのポイント①>

- ◇雇用確保で人口減に歯止め
- ◇自主財源の確保

### 観光振興によるまちづくり

市内には、「鳳来寺山」「湯谷温泉」「東海道自然歩道」「長篠城などの城跡」「桜淵公園」など観光拠点となりうる資源が散在しています。今必要なことは、財源・人材の選択と集中を進め、年間を通して観光客に選ばれるまちをめざすことです。



### 歴史ある鳳来寺山の活性化

鳳来寺山は、源頼朝、徳川家康、今年全国的に話題の井伊家にも深く関係しています。ちなみに、頼朝は3年間、直政は7年間もかくまわれていたそうです。

この鳳来寺山の魅力向上のため、住民のみなさんとともに表参道に、桜・紅葉などの植樹をします。また周辺の空家対策（門谷小跡地、鳳来寺高校跡地も含む）と店舗対策の連携、河川整備、表参道までのJR駅（本長篠、大海、新城など）からの交通手段の検討（歩き、自転車、馬車など）、旧田口線の活用検討など、具体的な魅力づくりを進めます。

### 湯谷温泉と観光地の連携

湯谷温泉街と周辺観光資源（鳳来寺山、東海自然歩道、宇連川、県民の森、乳岩など）との連携が必要です。それぞれの資源を連携させながら整備を進めます。

### 戦国を連想させる観光施設整備

長篠城跡を最優先に、戦国を連想させる長篠城跡周辺総合計画などの具体的検討を始めます。併せて、亀山城跡、古宮城跡、野田城址、宇利城跡、柿本城跡などとの連携を進め、市内各地の見える化を進めます。

### 桜淵公園と中心市街地活性化

桜の老木化などが進み、「三河の嵐山」と言われたのは昔になってしまった感があります。一級河川が流れ、ボート遊びを楽しむこともできますが、春の桜、夏の花火以外は目立った賑わいがありません。

桜淵公園は、新城城主菅沼定実が植樹したのが始まりと言われる由緒ある桜の名所です。その近隣には、城下町の骨格を残している中心市街地があります。この中心市街地に城下町としての風情を復活させ、桜淵公園と新城城下町との連携をめざし、市内滞在時間を増やします。滞在時間が増えれば市内での経済循環が生まれます。

## 山林と田畑を活かして活性化

第一次産業は、合併後、補助金に頼るだけで、現状維持さえできない状況でした。新城市独自の農林業政策を打ち出さない限り、山は荒れ、田畑は耕作放棄地になるだけです。

## 体にも環境にもやさしい農業

大量生産・大量流通・広域流通のため、農薬・添加物は当たり前のように使用されてきました。その影響が、子どもの発達障害、高齢者の認知症の増加にも現れていると言われています。

食べ物を選び食べ方を変えることで、子どもたちの健康を守り、健康寿命も伸ばせます。その保証となる安心・安全な食料を自給自足する政策は、農業を支えることにつながります。「健康な自治体づくり」を新城市の農業ブランドにします。農業をめざす若者に、自然と調和した農業（有機・無農薬農業など）の魅力を伝えます。新城市全体で、体にも環境にもやさしい農業で雇用を増やします。



## エネルギーを山から

現在、補助金で間伐を進めていますが、間伐材は、山中で腐りっぱなしです。さらに、山では立派に育った木が売れず、切ることもできません。まさに山は存在しているだけで、価値を産み出していません。

その流れを変えようとする取り組みが始まっています。木質バイオマス発電です。岡山県真庭市では、建築材としての利用ができない材木（間伐材、林地残材、加工廃材など）を燃料として燃やして発電を行っています。燃料材確保のための山仕事、発電所関連の仕事などで、市内の雇用が増えています。さらにエネルギーの自給で、市外に出ていた電気代が市内で循環しています。「無理」と決めつけず、可能性に挑戦します。時の過ぎるのを待つだけでは、山は荒れるだけです。



## 医療費・介護費の上昇の抑制

高齢化の進展とともに、医療費・介護費用の上昇が予想されます。その対策のなめは「健康寿命」を上げることです。「食の安全」の農業政策とともに、健康意識改革、一人きりにさせない地域のコミュニティーの仕組み作りを進めます。医療費・介護費用の上昇を抑えることで、財政に余裕をつくります。

## 市役所の改革で市民の信頼を作る

合併後、職員補充減などの対応で、職員数（一般行政職など）を681人（H17年）から619人（H27年）へと減少させてきました。今後は、各種事業の精選で業務の効率化を進め、併せて、自治区と行政との責任範囲の見直しも行い、適正な職員数にします。それにより生み出される財源を市民サービスに振り向けます。

### <10年後のためのポイント②> ◇議会改革の推進

## 議会は市長と適正な距離を取れ

市長と議会を構成する議員は、ともに選挙で選ばれます。考え方は多様であるはずですが、なぜか市長の言うことになびく議員が多数になってしまいます。市長と議員が、是々非々の議論をしなくなれば、行きつく先は、市政の停滞です。市民福祉向上のために、市長と議会のなれ合いは先ずなくします。



## 政策を議論できる議会に変える

これまで議会は、政策提案について無関心でした。政策のほとんどが市長ひとりから提案され、そのほとんどが修正なしで可決されてきました。議会での議論がないままで、市長の提案を認めるだけの議会でした。これでは市政は発展しません。議員同士の徹底討論を行い、議会として政策を練り上げ、市長と政策論争できる議会に変えなければ、市民の不幸は続きます。

## 市民が変われば市長・議員も変わる

市長・議員を選ぶのは市民です。ただ何となく選ぶのでは、何も変わりません。候補者を作るところから市民が関わることが大切です。

# 白井みちひろの略歴

【生年月日】 昭和32年9月18日

【学歴】 千郷小・中、新城東高校、  
三重大学工学部卒業

【職歴】 機械製作メーカーに19年間勤務  
(議員立候補のために退職)

【市議会議員歴】 平成11年から21年、  
平成25年から29年、  
議員活動計14年間。

## 【これまでの活動】

◎市長選立候補 平成21年11月

◎新庁舎住民投票に取り組む  
多くの市民との協同で実現。その  
結果「絶対見直しはしない」と言っ  
ていた市長・議会が見直しに方向転換。

◎有機栽培・自然栽培の実践。

◎有機無農薬栽培仲間とこだわりの  
産直の店開設。

◎歴史の見えるまちづくりのため、  
「笛の盆」をテーマに長篠城址、鳳来  
寺山、野田城址で活動中。

## 一言

議員を14年間、「これ  
でいいのか？」と考え続  
けた年月でした。今度こ  
そ変えなくては、次回で  
は遅い。そんな思いで取  
組中です。



◆**新城市の10年後のために、ご意見をお寄せください。**

## <私の一言>募集

◇性別 ( 男 女 )

◇年齢 (10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上)

◇住所地区 ( 新城地区 鳳来地区 作手地区 )

◇合併してどうでしたか？

( 良かった どちらでもない 悪かった )

→理由を教えてくださいませんか？

◇このチラシを読んでのご意見があれば下記へお願いします。

◇あなたが希望する政策があれば下記へお願いします。次の市長選に役立てます。

※「私の一言」をFAX (23-5830) または郵送でお送りください。